

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年9月13日】第94号



## 緊張感をもって

9月1日(水)の始業式から、緊張感をもっての2学期が始まり、第2週が終わりました。新型コロナウイルス感染防止についての児童の理解も深まり、不織布マスクの正しい着用や黙食なども徹底しています。大切な児童を預かる教職員一人一人の緊張感は、職員室でも感じられる毎日でした。毎朝、子どもを送る出す保護者の皆様にも、毎朝の検温や健康調査は当然のこととして、登下校の乗り物内ではおしゃべりしないこと、マスクの正しい着用など感染防止のためのルールについて声掛けほか、様々なご協力をいただきました。さらに、通常であれば励まして授業を受けさせる程度の軽微な腹痛など体調不良であっても、すぐに保護者にお迎え要請をし、早退の措置をとりました。早退した児童も翌日は元気に登校し、ほっとしましたが、予防措置であるお迎え要請にお応えいただいた保護者の皆様にも感謝しています。

私たちの生きる社会においては、何事であれリスクをゼロにすることはできません。しかし、科学的な情報に基づき、それぞれの行動によってリスクを軽減することはできます。また、リスクが生じたときに、柔軟に対応しリスクを最小限にすることも必要でしょう。新型コロナウイルスだけでなく、様々なリスクが想定される現代社会にあっても、子どもたちを健やかに成長させるための努力を、保護者と力を合わせて続けていきたいと思えます。

## 好奇心いっぱい学ぶ

9月7日(火)、3年生の稲花タイムは、(一財)進化生物学研究所の研究者山口就平先生をゲストティーチャーにお招きして、「いろいろいるから面白い昆虫の話」をしていただきました。海外の昆虫やその生態に関する著書も多い山口先生は、毎月一回、本校の子どもたちのためにと、進化生物学研究所から昆虫標本を運んで展示して下さっています。9月の始業式からは、巨大なバッタの標本が、子どもたちの好奇心を刺激しているところです。



授業の当日も様々な標本をお持ちくださった山口先生からは、昆虫の体の構造や多様性について、さらに、採集や標本作りの大切さについても教えていただきました。巨大なチョウ、珍しいカブトムシ、きれいなタマムシなどの標本の力は圧倒的です。さらに、山口先生が南米で出会った小さな小さなシジミチョウの話や、採集した夜に宿で標本を整理する話も、子どもたちの心に残ったことでしょう。農大稲花小の子どもたちの知的好奇心が、様々なゲストティーチャーによっても支えられていることを実感した授業でした。

## お世話になりました

新学期から、新規に教員1名と英語講師1名が着任して、本校の教育の充実が進んでいます。一方で、本校設立の準備段階である2018年12月以来、本校の事務一般を担当してきた事務職員1名が、9月10日(金)をもって退職しました。

いつでも優しく接してくれてきた事務職員には、10日(金)の下校時に、子どもたちから次々に、「ありがとうございました」の声があがっていました。「困っていたときに、助けてもらってありがとう」「雨の傘を貸してくれて ありがとう」と、子どもたちにはそれぞれの思い出があります。入学以来3年間にわたってお世話になった1期生(3年生)からは、ありがとうのビデオメッセージも届けられました。これからも子どもたちの成長を見守っていただくよう、教職員一同からもお願いした最終勤務日となりました。

## 中止になった校外学習

緊急事態宣言が延長となり、学校の行事の見直しも行われました。とくに3年生が楽しみにしていた「東京農業大学富士農場宿泊学習」は、早い段階でまず日帰り校外学習に変更し、最終的には中止となっています。受け入れ側の富士農場関係者には、入念な受け入れ準備をしていただいただけに、残念でした。また、9月17日(金)に予定していた田奈の田んぼでの稲刈りも中止としました。1年生と2年生が楽しみにしていた稲刈りができないのも、残念なことです。一方、学校から近い「農大稲花小の畑」での実習などは継続します。また、状況にもよりますが、東京農大厚木キャンパスや伊勢原農場などでの実習については、引き続き実習の可否を検討してまいります。

## オンライン(Zoom)

本校では昨年の一斉臨時休業(休校)以来、録画動画を含む教材の配信やオンライン(Zoom)による学級会、英語授業、保護者会などを行ってきました。さらにオンライン(Zoom)による授業参観では、リアルタイムでの授業配信を行っており、保護者の皆様にもご対応いただきました。これらの積み重ねをも踏まえ、今後も、子どもたちにとって最良な対応をしてまいります。

## ICTについて学ぶ

本校では入学試験，保護者への各種の連絡においてインターネットを活用しています。いわゆるお知らせプリントによる連絡は，ほぼありません。また，毎日の出欠・早退の連絡も「ツイタもん」アプリを利用し即時性をもって管理しています。また，本校には黒板がありません。ホワイトボードと，単焦点プロジェクター，さらに，電子黒板のアプリも導入しています。授業ではタブレット学習もはじまりました。

児童が登校しない8月下旬から始業式の間，教員には，タブレット端末を用い自動採点も可能な個別学習を支援するアプリケーション「FUJITSUペンまーる」，資料や教材へフリーハンドの書き込みや保存が可能電子黒板用ソフト「PenPlus for EPSON」の研修を行いました。ポプラ社による電子書籍Yomokka!の試行はすでにはじまっており，たくさんの児童が活用しています。

新学期を前に，すべての学童用タブレットの点検も行い，不調なタッチペン(児童が齧った?)の交換なども完了しています。2学期からは1年生の子どもたちが，タブレットの使い方を学び始めました。

本校では，小学校という場を大切に，実物に触れること，体験すること，子どもたち同士の触れ合いや学び合い，さらに，子どもたちと教職員やゲストティーチャー，社会との関わりを大切にしています。同時に，ICTを活用した教育にも，大きな可能性があると考えています。ICTの活用については，教職員も学び続けていかななくてはなりません。

## キンモクセイの香り

9月10日(金)夕方に第一部，9月11日(土)午前中に第二部と第三部，合計3回の年長児保護者を対象した2022年度入学試験説明会(オンライン)を行いました。11日(土)の朝，小学校に出勤すると，静かな東京農業大学キャンパス周辺から，キンモクセイの香りが漂っていました。例年に無い早さには驚かされます。このところ続いた低温の影響があるのでしょうか。体調を整えるのも容易ではありません。説明会(オンライン)にお申し込みいただいた1,000名を優に超える皆様にも，健康に留意され11月の入試まで過ごしていただくように願っています。本校でも，適切に入学試験が実施できるよう，確実に準備を進めてまいります。

校長 夏秋 啓子